

様式第3号（第7条関係）

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 水戸市立図書館協議会
- 2 開催日時 令和5年2月28日（火） 午後2時00分から3時15分まで
- 3 開催場所 水戸市立内原図書館 視聴覚室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委 員
橋本浩志, 平野弥生, 白石力, 冨田とし子, 石田幸子, 兼清紀郎, 桧山啓子,
高池宣彦
 - (2) 執行機関
林栄一, 大平高生, 三好正高, 柳橋敬子, 田中環, 金田美慧, 竹内悟, 吉田浩和,
笹川直樹, 駒田淑恵, 白鳥謙哉
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 令和4年度図書館利用状況について（公開）
 - (2) 令和5年度図書館運営方針及び重点課題（案）について（公開）
 - (3) 令和5年度の主な事業（案）について（公開）
 - (4) 令和4年度指定管理者制度導入館事業実施状況について（公開）
 - (5) 学校図書館支援事業について（公開）
 - (6) その他（公開）
- 6 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 7 会議資料の名称
 - (1) 令和4年度第2回水戸市立図書館協議会
- 8 発言の内容

【議長】では、資料に基づき議事を進めてまいります。まず議題の一つ目であります令和4年度図書館利用状況について事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議長】ただいまの事務局説明について御質問や御意見がございましたら発言をお願いします。

【委員】はい。まず一つわからないところがあったので、教えていただきたいのですが、延べ日数が少ない気がしたので。というのは令和3年度の閉館日、8月9月1月2月を足すと59日になります。令和5年1月現在なので、2月3月を足すと28と31で59日になるので、同じなのかなと思ったのですが、延べ日数が1,540と1,471なので、70日ぐらい違っていています。これはなにか理由があっそうなっているのか教えていただきたいと思います。以上です。

【事務局】開館日数の延べ日数につきましては、令和3年度と令和2年度は、コロナの休館がございまして、日数のほうが減っている状況でございます。

【委員】令和2年度が49日少なく、令和3年度が59日少ないということは数えて承知しています。

【事務局】今年度は休館がなかったため、1月末現在の数字が1,471日となっております。3月末までの見込みが1,727日となっております。

【委員】はい、わかりました。あと二つほど質問させてください。先ほど令和3年度に比べて、概ね増えているというお話をいただいたと思うのです。確かに数が増えて良かったなと思っているのですが、減っているのもあるのかなと思うのです。というのは、貸出点数と貸出人数。本を貸すというのが業務そのものだと思うのですが、入館者数で割りどれくらい貸しているのか、開館日数で割りどれくらい来ているのか、と計算してみると、令和3年度が1.63なのが1.48ということで、貸出点数が下がっており、令和2年度より少なくなっています。貸出人数についても184.9から174.9ですから約平均10人少なくなっています。コロナで苦しんでいる時期よりも少なくなっているのです。どうなのかと思ったのですが、これから2月3月で増え、平均が上がるようなものなのか、それとも理由があっ少なくなっているのか、教えていただければと思います。

【事務局】まだ細かい精査というか調査をしているわけではないのですが、やはりコ

ロナの影響で来館については、以前ほどは回復してないのではないかと思います。こちらの数字のほうにはまだ出てきてないのですけれども、2月に入りまして、社会状況が少し好転してきたところもありまして、今は少し回復しつつあると考えております。

【__委員】令和2年度、3年度はコロナがひどかったと思うのですけれども、それよりも下がっているのは、それはなぜだと思いますか。どのように考えているのか。わからないと思うのですけど、なんとなく感覚でどうなのかなということを教えていただきたいと思います。

【事務局】感染状況の中で借り控えをしてきたというのがあって、借りていた方々が図書館以外に目を向けてきたのではないかと考えております。今までは、本を借りてお家で過ごすという方がある程度いるのかなと思うのですけど、そういった方もやはり旅行に行くなど、そういうことで他に目が向いてきたのかなと考えております。

【__委員】わかりました。そういうことでよろしいですか。

【事務局】はい。

【__委員】それで大丈夫ですか。

【事務局】私もそうだと思います。やはり生活の選択肢が増えたのが原因かと感じております。

【__委員】わかりました。ありがとうございます。

【議長】はい。もう一つの質問は。

【__委員】そうですね。もう一つは、図書館利用状況の裏面の満足度の調査ですけれども、令和2年度が94%、令和3年度が94%だったのですけど、令和4年度が89%。先ほどは約9割を維持しているとお話されていたのですけれども、逆に言うとマイナス5%なのかなという見方もあるのですね。このずっと高い水準を維持していたのが、ちょっと下がっているというのは、何かきっかけみたいなものが、これもさっき言っていた、外に目が向いてきたからと、満足度が下がるということはちょっと違うような気がするのですけれども。このあたりはどうお考えであるかを教えていただければと思います。

【事務局】そうですね。正直に申し上げてこれはわからないところがありまして、このいく

つかのアンケートの項目がございませけれども、その中で一番不満というか、悪い選択肢の多かったのが、資料の探しやすさというところだったのですが、そちらに関しましては図書館の分類の仕方、十進分類法というのですけれども、分類の掲示を大きくするなど、させていただきまして徐々に対応はしているところではあるのですが、特定というふうに確定できるものではないかと思ます。

【__委員】私が気になったのは、数字は戻ってきているし、特にイベントの数も増やしてきた素晴らしいなと感じています。ただ一方で気になるのが、貸出という、本を貸す業務そのものが減っちゃっているの、満足度が減っているのが少し気になりました。多分この数字ってアンケートですごく大事だと思って取ってらっしゃると思うので、9割超えているから、確かに89%も素晴らしい数字だと思います。ただ、そういう状態だからいいかということではなくて、なんで5%下がったのだらうというところを調べていくという、検討をしていくことがすごく大事なのかなと感じたので、どんな風な検討をされているのかなと思って、気になってお話ししたということでございます。以上です。

【議 長】その他に御質問や御意見がございましたら御発言をお願いします。よろしいでしょうか。次に二つ目の議題であります令和5年度図書館運営方針及び重点課題（案）について事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議 長】ただいまの事務局説明について、御質問や御意見がございましたら御発言をお願いします。よろしいでしょうか。次に三つ目の議題であります令和5年度の主な事業（案）について事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議 長】ただいまの事務局説明について御質問や御意見がございましたら御発言をお願いします。よろしいでしょうか。次に四つ目の議題であります令和4年度指定管理者制度導入館事業実施状況について事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議 長】ただいまの事務局説明について御質問や御意見がございましたら御発言をお願いします。

【__委員】 去年度の事業の中で、四中生がYAサポーター育成の事業の一環で、図書館に
いるうちに本の紹介とか、コーナーを作っている様子を見て、青少年育成会議の活動の中
での、小学生中学生、特に中学生の育成活動の様子を育成会議で出している「道芝」の中
でも今後取り上げていこうかと話題になっていたのも、ぜひ今回常澄中、常澄図書館のほう
で常澄中学生が2名入ったということで、こういった事業を育成会のほうで宣伝してい
きたいなという思いと、ぜひ他の図書館でもこういった事業を今後考えているのかどう
か、お聞きしたいと思います。育成会議の「道芝」、広報誌で取り上げることについては
協力していただければ今後ずっと進めていければなと思っているのですが。

【事務局】 はい、ぜひYAサポーターを取り上げていただければと思います。指定管理者の
中でYAサポーターの活動をまだ開始していないのが西部図書館と内原図書館なので
けれども、それぞれ一言ずつお願いします。

【事務局】 西部図書館なのですが、1回募集をかけたことはあったのですが、改めて募
集してみたいと思います。

【事務局】 内原図書館といたしましても、活動の内容を近隣の方に御紹介しているところな
のですけれども、引き続き周知を図ってまいりたいと思います。

【__委員】 子どもたちの活動の場を作っていただければ非常にありがたいなと思います。以
上です。

【__委員】 各地区館における自主事業の展開ということで、コロナ禍の中、苦勞しながら自
主事業を展開していくところは大変素晴らしいなあと見せていただきました。ま
もなく5月8日をきっかけに少しずつ更に展開、変わっていくと思うのですけれども、ぜ
ひコロナ禍前、さらにそれ以上に充実させていけるように取り組んでいただければと思
います。私からも一つ質問ということで、前回電子図書館について私のほうでお話させ
ていただいたと思います。ちょっと自分としてはあの後何か反応か、連絡もあるのかなと
思ったのですが、何もなかったのも、ちょっぴり残念だなと思っていたのですけれど、
実は今年私の勤めている学校で児童全員に電子図書館のカードを持たせて、全員が読め
るようにしました。子どもたち一人1台端末を持っているので、朝の自習の時間とか読め
る状況を作りました。読んでいた子どももいたのですけれども、思ったより食いついてく
れなかったようで、子どもたちもすごくタブレット大好きで、いつも触っているのですが、
担任とか子どもたちに聞いてみると、そんなに読みたい本が多くないかなという意見
を持っていたみたいですね。できれば、子どもたちにも読みたいような本を、充実して
いただければありがたいなというのが正直なところなんです。小学生に電子タブレット一人

1 台端末を持てる時代になったので、電子図書を読めるような状況を子どものうちから親しませていけば、ものすごく本に親しめる状況を広げていけるのではないかと思います。図書カードを一人一つ持って、図書館に行ってみようという子どもたちが増えるのではないかと、というのが私の考えで希望でもあります。お聞きしたいのは小学生中学生でも読みたくなるような電子図書の充実に向けた取組をとということについて、お考えがあるのかどうか。どのような方向で考えているのかをお聞きしたいなと思います。よろしくお願いします。

【事務局】小中学校向けの電子書籍の数は少しずつではありますが、増やしております。ただ、なかなか児童が気に入ったものがラインアップされてないのかもしれませんが、電子図書館の運営をしている立場からは少しずつでも増やしております。それから本年度ちょっと特徴的だったのが、退職された校長先生が自分の赴任していた学校の周りの歴史を自分なりにまとめた電子書籍です。地域学習で勉強している児童の方が、校長先生の作った独自資料を、結構閲覧してくれているというケースがすごく増えました。今後私たちは、市販されている本だとかそういうものではなくて、水戸市の皆さんが作っていて電子書籍にしたら面白いねというものを電子書籍化して、子供たちの学習にも使えるようなことを推進していこうと考えております。

【__委員】ありがとうございます。ちなみに学校全体で利用カードを申し込んで全員持たせたい。石川小でもそんなこと言っていたのですけれども何校ぐらい今ありますか。

【事務局】今年度の実績で全体の3分の1くらいの小学校に。これは希望によってなんですけれども、いらないという子どもには作らないのですけど。学校にお話をして作りたいという子供に対して3分の1くらいの子供にID、パスワードを発行しました。今、おっしゃった石川小とかはすごくよく使ってもらっています。また来年も増えると思います。

【__委員】ぜひ、そうやって広げていくといろんな効果はあると思うので積極的に取り組んでいただけるとありがたいです。

【議長】その他に御質問や御意見がございましたら御発言をお願いします。よろしいでしょうか。次に五つ目の議題であります学校図書館支援事業について事務局から説明をお願いします。

【事務局】（資料に基づき説明）

【議長】ただいまの事務局説明について御質問や御意見がございましたら御発言をお願い

いします。

【__委員】いつも助けられていて本当にありがたく思っております。特に学校を回ってくださる皆様には本当に素晴らしい取組をしていただいております。次年度も同じように学校を助けていただければと思います。一つ質問をさせていただきたいと思っております。データベース化進捗率についてです。第1回の資料に、令和3年度の数字が書かれていたのですが、そちらには小学校のデータベース化進捗率が67%、中学校のデータベース化進捗率が38%と書かれていました。これは小学校の進捗率0%で中学校だけ上がったということなのか、それとも何か他の理由であまり変わっていないのか、よくわからないので、去年の数字と今年の実績が同じ67%だけど、小学校だけは、去年は67%だけど今回は一つで67%の数字、これはどういうことなのか、小中足したものなのか、分けたものなのか、分けたものがあるならば数字を教えてくださいとありがたいですが、以上です。

【事務局】データベース化の進捗率につきましては、現在小学校と中学校でそれぞれが、支援員が担当を持っているのですが、小学校の担当、中学校の担当に分かれて定期的な巡回を行っておりまして、個人の作業の足し上げで小学校の分、中学校の分と見ていたのですが、この度67%とあわせて示したのは、残り最後の仕上げの1年間につきましては、小学校のほうが進んでいまして、大体76%ぐらいまでできております。中学校は54%ぐらいではあるのですが、蔵書登録が作業量としてとても大きい部分であります。小学校と中学校で作業を協力して最終的に令和5年度中の蔵書登録の完了ということで、もともと進めておりましたので、小学校だけ100%で中学校は8割とかそういうことではなくて、どちらも併せて人員を配置したいと考えておりますので、その意味もありまして全体の進捗率という数字で示しております。

【__委員】わかりました。令和3年度と比べると小学校は9%増えて中学校は16%ですかね。大きく伸びて進捗率が向上したということで捉えてよろしいですか。

【事務局】はい。

【__委員】はい、わかりました。ありがとうございます。

【議長】本日皆様に御審議いただき議題はこれで終了となります。次にその他といたしまして、本日の議題、あるいはその他でも結構ですので御意見等がございましたらお願いします。

【__委員】先ほどアンケートのところで、お話しすればよかったですけれども、入館数とか貸出点数とか数字が大きく伸びてない部分や、今後の伸びを期待する部分が話題になっていましたけれども、引きこもりなど、家の中で籠っているのが影響して子供たちや青少年も活字離れが進んでいるのも現状なのかなという思いを個人的には持っています。タブレットとかスマホとか、電子機器を使うのは若い青少年は非常に慣れていて、デジタル化していく部分は非常に大きい意味があると思うのですが、私達はあまりタブレット端末に慣れていない。自分もそうですけれども、やっぱり子供たちにも図書館に足を運んで、紙をめくってここまで読んだとか、しおりを挟んで、考えにふけるとかそういう体験を大事にさせていきたいなという思いを改めて感じました。アンケートも丁寧に実施いるようで、多分同じ項目で、共通の項目でチェックか何か入れるような形になっているのでしょけれど、私達もいくつかアンケートは取るのですけれども、最後に自由記述みたいな欄があって、市民目線で市民からのアイデアがあり、自由記述のところ図書館に対する思いとか、今後のwithコロナの中で改善できるようなアイデアが書かれているような。アンケート自体は自由記述の部分が、集計が大変だと思います。私達もやっていて大変ですが、アンケート自体は自由記述の部分はあるのでしょうか。

【事務局】はい。

【__委員】そういったところにアイデアが含まれていればいいなど。

【事務局】指定管理の地区館を対象としている行政経営課のアンケートにつきましては、自由記述欄がございまして、お手元にも資料があるのですが、各館それぞれのその他自由意見ということで載っております。それで載っているものに関しましては、次の時までには悪い点、例えば、本が棚にいっぱい詰まっていて出し入れが難しいところがあるという点を指摘いただきましたら、少し余裕をもって配架するとか、大人の読み聞かせ等をしてほしいという要望とかございまして、大人が対象のお話会のイベントを開催するなど反映させていただいています。

【__委員】ありましたね。これが見たかったです。こういうところにいろんなヒントがあるのかなと思って。集計大変でしょうけど。

【事務局】貴重な御意見と受け止めて、改善に結び付けたいと思っております。

【__委員】ありがとうございます。

【議長】こちらで最後になりますので、まだご発言のない方はお願いします。

【__委員】今、障害があってもなくても住み慣れた地域で生活ができるようにということで、全国的に厚労省が取り組んでいるのですが、その障害者に対する書籍というものはあまりありません。最近たくさん出始めているのが、その実態も映写化したDVDで見ただいて、実際こういうものだという理解をする。それで書籍でそういうもの読むと実態は全然つかめない。だけどそれをDVDにより、映像で見ることによって、共通の理解を得ることができる。そういう難しい問題だけど、社会の中では大事な問題になります。要するに、最近NHKのEテレでいろんな放送をしていますけど、それがNHKからDVDのような形になって発売されています。そういうものを図書館で揃えるというようなことは、今のところは考えてないのでしょうか。それともそういうことが進んでいるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

【事務局】DVDというのは、デージーとはまた違うものですか。デージーというのは障害者の方に向けたソフトがあるのですが、それとはまた別のものですか。

【__委員】要するに一般的に見られるようなものです。

【事務局】通常の映画のDVDとはまた違うものですか。

【__委員】いや、もう要するに映画です。それを例えばパソコンで見られるような、学校の施設でとか、デジタル機器で見られるような。とにかく障害者に対する理解とか、いじめというのがどういうところから出てくるのかという、そういうことを分かりやすく、映像で見せるというのが、特に増えてきています。そうじゃないと、その言葉で表したって、その言葉をそれぞれ受け止めて、どういう意味を自分で受け止めるかということが非常に難しいので、そういうところは映像で見えていくと、実生活の中でこういうことをしている、それに対していじめるということがどういうことなのか、みたいな形で、いろんな場面を生活の実態の中で見られるような、そういうものが出始めているのですけれども、そういうことを、それこそ小学校・中学校の早い時期に、きちんと教えていくっていうこと、理解させていくってことが大事なのですけれども、今までそういうことをあんまり取り込まれてきてない。そういう新しい切り口で取組んだときに、そういうものを図書館で資料として揃えて児童に見せて、授業の中で見せていくという、そのようなことは学校教育の中ではまだまだです。精神障害者の問題なんかも高等学校ではじめて、今年から保健体育の授業の中で少し入ってきました。だけどそんなのはもう何十年も諸外国から比べたら、日本は対応が遅れています。そういうことを早く、要するに理解を進めるために、そういう資料というものをどんどん新しいものを取り入れていく。これは学校教育そのものであるのですから。それを図書そのものというよりも、ある程度そういうものを、リカバリ

一していく手段だと思うので、要するに図書館に関係している皆さんがどういうふう
に理解して、そのあたりを捉えているのかというのを、ぜひ皆さんの御意見をお聞きしたい
と思います。あまりこのようなことは出てこないのです。それは当たり障りがないような
格好で避けてきています。もうそういう時代でなくなってきたということ、ぜひ皆
さんに理解していただきたいなど。そのために私はここに出てきていると思います。

【事務局】ただいまの御意見をいただきまして、正直言って、私どもちょっと勉強不足の
ところが多々あると思っております。学校教育の現場と図書館は全く違いますので、御意見
を申し上げるのも図書館サイドでしか言えないのですが。今御意見いただいたものを、ど
ういったものか勉強させていただきまして、そういった中で、図書館でもできるような
ことがあれば、検討させていただいて勉強させてください。

【議長】他にも御意見とかあれば御発言をお願いします。

【委員】はい。いろいろ今日もお話をさせていただいたのですが、やっぱり気になってし
まったのが、2ページ目最初に言った、満足度が下がっちゃった5%ですね、下がったと
言っているのかわからないですね。令和元年度は90%だったので、元に戻った、コロナ
前に戻った、近づいているのかなということ。ただ、コロナ禍の中でこれだけ満足度を
高めたということは、それだけ素晴らしい取組があったからこそだと思います。いろんな
工夫をしているんな大変な思いをしながら、水戸市立図書館の皆さんが誠心誠意取り組
んだ結果が、この94%という大きな素晴らしい数字になったのかなと思っています。こ
れからコロナが明けていくことになっていくと思うのですが、コロナが明けるからま
た元に戻る、とかいう感じはちょっと寂しいなというのが正直な気持ちです。コロナ禍で
培ってきたものが、コロナが明けても生かされて、また元に戻っても9割ぐらいかじゃな
くて、94%の皆さんが素晴らしいなと、さらにもっと素晴らしいなと言ってくれた、たか
が5%されど5%というのですかね。そこのところはぜひ、大事にしてくれれば、水戸市
民として本当にありがたいなと思います。私どもは子どもたちを本好きの子どもたちに
育てたいという気持ちで、一生懸命取り組んでいるのですが、やっぱりここにいる人た
ちは皆さん一緒じゃないかなと思っています。我々はいかに本と親しんで人生を豊かに
過ごしていけるかが大事だと思いますので、いろんなアプローチがあると思いますが、
ぜひ、この数字のところをご検討いただいて、コロナ明けも、今までのように素晴らしい
取り組みをさらに充実していただけるとありがたいと思います。以上です。

【議長】その他にも御意見があれば御発言をお願いします。よろしいでしょうか。それ
では本日の議題につきましては以上でございますので、これで議事を終了とさせていた
きます。ありがとうございました。